

# つくる健康



京都医療生協

第204号 2022年(令和4年)7月15日  
発行所/京都医療生活協同組合  
京都市中京区聚楽廻東町2番地  
視力センタービル地階  
☎075(822)2286 FAX075(822)6133  
発行責任者/宮本和明

## 京都医療生活協同組合第75回通常総代会開く

### 全議案採択され、2022年度スタート 目、医療、健康、暮らしの課題に向かって

京都医療生活協同組合は6月18日、コープ御所南ビルで2022年度の第75回通常総代会を開催しました。総代数100人の内、書面議決書85人、本人4人の出席合計89人で成立。司会は須賀修司常任理事。議長に上木紀介総代を選任しました。始めに宮本和明理事長が挨拶しました(別記)。「2021年度事業報告」などの第1号議案と「2022年度事業計画」などの第2号議案を清水泰治専務

理事が、「役員選任」の第3号議案と「役員報酬」の第4号議案を松本忠之常任理事が、「定款一部変更」の第5号議案を川久保雄二郎常任理事が提案しました。

5つの議案は議案ごとに採決し採択されました。2021年度事業報告では、組合員数が993人増、4,306人減で27,956人の厳しい結果になったことを明らかにしました。

(2面に関連記事)



コロナ感染防止のため今年も縮小して開かれた通常総代会。参加者は総代本人、役員ら17人。資格審査委員は早田さちさん、書記は山内博貴さん

本年も、一昨年、昨年と同じ形となりましたが、こうして第75回通常総代会を開催できますことを、ありがたく思います。

新型コロナウイルス感染症によって、感染拡大時における医療体制の課題が浮き彫りになりました。と同時に、将来の新たな感染症に備え、想定外の事態に見舞われたときに準備しておくべき、平時からの医療体制の構築の重要性を改めて認識することができました。それを踏まえて、私たち京都医療生協中野眼科について考えてみたいと思います。医療生協とは本来、地域の人々がそれぞれの健康や医療、暮らしにかかわる問題を持ち寄って医療組織を作り、それを通じて医療専門家との協同によって、問題解決のために運営される生協法に基づく住民の自主組織です。

その基本理念を基盤に、私たち

中野眼科は、今回のような想定外の状況にあっても、課せられた使命を十分に果たし、より良い医療組織として発展していくためには、

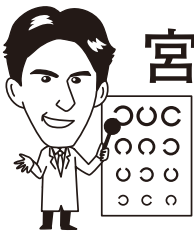
私たち職員が一丸となって日々努力して行く必要があると考えます。良い医療を実践するには職員の精進が必要であることはもちろんですが、実は医療は患者さんと一緒に作り上げていくものです。これこそ、医療生協の基本理念そのものです。中野眼科を受診される全ての患者さんと手を携えて、中野眼科がより良い医院になるように、今にも増して良い医療を提供できるよう努め、来たるべきさらなる長寿社会を展望しつつ、人々の目の健康を守る社会的公器として、その役割を果たしていきたいと思

います。引き続き、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。



総代会挨拶 宮本和明 理事長

### 医療は患者さんと一緒に作るもの



## 宮本理事長の目も / ④「アイフレイル」ってご存じ?

味します。フレイルとは、英語の「Frailty(虚弱)」の和訳で、健康な状態と介護が必要な状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下がみられる状態のことを指します。適切な治療や予防を行うことで要介護状態に進まずに済む可能性がある状態で、これに対処し、前述の健康寿命の延伸を目指すために提唱された概念です。このフレイルに、目を意味するアイ(Eye)をつけた言葉が「アイフレイル」で、年齢とともに目が衰えてきた上に、様々なストレスが加わることによって目の機能が低下した状態を意味します。

アイフレイルは、広い範囲の視機能の低下を含んだ概念です。白内障や緑内障、糖尿病網膜症や加

齢黄斑変性といった目の病気はもちろんのこと、何となく見にくい、目が重たい、ショボショボするといった軽度な不調を感じる場合も含まれます。ふと気付いた見にくさを、単に「歳のせい」として片付けず、自分自身の見る力を振り返る機会とし、問題点の早期発見につなげて頂きたいと思

います。「自分はもしかしたらアイフレイルかも?」と思われる方は、図のアイフレイル自己チェックをやって下さい。

当てはまる方は、ぜひ一度、眼科の受診をして、目の健康寿命を



延ばすきっかけにしてください。

(宮本和明)

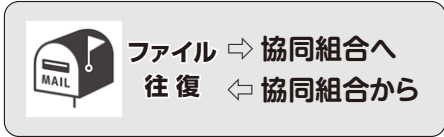
アイフレイル自己チェック図とQRコード

最新のデータによると、我が国の平均寿命は女性が87.74歳、男性が81.64歳で、女性は世界1位、男性は2位となっています。ただこの年齢は、寝たきりの状態も含まれており、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義される「健康寿命」となると、女性は75.38歳、男性は72.68歳で、平均寿命とは約10年の隔たりがあります。これは、決して短くはない年月を日常生活に制限のある不健康な状態で過ごさなくてはならないことを意

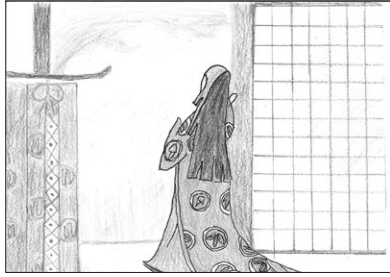
ずいぶん前に、全盲弁護士の竹下義樹さんから「趣味はアルプスでのスキーです」と聞いたことがある。最近、新聞で「目の見えない人は視覚を補うのではなく、残された聴覚や触覚などを鍛えていろんなことができるようになる」という記事を読んだ。話は変わるが、顔の主役は目だ。おとなしい鼻や耳と比べると、どんなに小さな目でも存在感がある。確かに、機能が多く口角泡を飛ばしてしゃべる口には圧倒される時もあるが、「目は口ほどに物を言う」ということわざもあるぐらいだから、決して負けてはいない。それに目は近所の口と鼻を少しだけだが監視することもできる。文頭のことのように、目にもしものことがあったとき他が代わりをしてくれる。だから鍛錬が大事ということだろう。どんな方法で鍛錬するのか。分からないが、はっきりしているのは日常の健康維持が大前提だろう。一度、最も優れた視覚を持つダチョウに聞いてみようか。

(川久保雄一郎)





■ お便りコーナー



(総代Aさんからいただきました)

■ オルソケラトロジーの「ご紹介カード」作成

京都医療生協・中野眼科ではオルソケラトロジーの「ご紹介カード」を作成、利用を呼び掛けています。オルソケラトロジーは、就寝中に特殊なコンタクトレンズを装着することで角膜に作用して近視を矯正、日中は裸眼で快適に過ごすことができる新しい近視矯正方法です。中野眼科本院で実施しており、利用者は少しずつ増えています。中野眼科ではこの矯正法を広く知ってもらうためにカードを作りました。友人やご家族をこのカードで紹介すると、同院で利用できる1,000円分の商品券が送付されるほか、紹介された人は本契約の時に3,000円の割引券として利用できます。(ま)

中野眼科で昨年7月から開始されたオルソケラトロジー。徐々に装着される人が増えている



■ メニコン社長、実はオペラ作家

コンタクトレンズの(株)メニコンの田中英成社長は「あおい英斗」という名前の脚本家です。今回医療生協の20組40人の患者さんを招待する公演、幕末オペラ新撰組外伝『歳三を愛した女』の原作・作詞はあおいさんです。乞うご期待を。



『歳三を愛した女』 公演予定  
7月21日 京都 ロームシアター京都  
7月29日 札幌 道新ホール  
8月9日 東京 渋谷区文化総合センター大和田  
8月24日 仙台 日立システムズ仙台  
9月28日 函館 函館市芸術ホール

■ コンタクトレンズキャンペーン中

中野眼科は現在、「メルスプラン夏入会キャンペーン」実施中です。入会者全員に最大3,000円相当のプレゼントをさせていただきます。この機会にぜひ。期間は7月1日から9月30日まで。

■ 一斉休診のお知らせ

中野眼科は、本院、四条分院、朝日会館診療所、京都駅前診療所の全診療所で8月15日(月)、16日(火)、お盆休みのため休診させていただきます。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。

通常総代会

朝日会館診療所移転へ注力。手術など専門診療の充実

京都医療生活協同組合通常総代会で採択されて2022年度事業計画の特徴的な内容は以下の通り。

白内障、硝子体内注射、涙道疾患の手術強化

本院の宮本和明院長、藤本雅大副院長、長嶋珠江医師、四条分院

の星野朗子院長、朝日会館診療所の清水恵美子院長、京都駅前診療所の高木史子院長の医師体制を一層強め、手術・診療・供給を充実させることとしています。とりわけ、患者さんから頼られている白内障手術・硝子体内注射・涙道疾患手術は中野眼科の事業での一丁目一番地です。



(写真左から時計回りで) センチュリオンビジョンシステム、スペキュラーマイクロスコープ、ハンフリーフィールドアナライザーの手術用の各機器など

朝日会館診療所を2023年2月移転へ

昨年から1年かけて朝日会館診療所の移転先を同移転実行委員会が探しました。この6月にホテルオークラ京都地下2階のテナントで賃貸借契約を結びました。地下鉄東西線京都市役所前駅の改札口に隣接しており利便性は抜群です。

移転先の京都市中京区の御池から北へ約200メートル



医療生協の人

3月に退職した なか み ち こ 中出 美智子 さん

祖父と学生運動から学んだ

実家は代々、大阪市塚本の地主。祖父は小作人に寛容だった。昭和の初め、国鉄(現JR)の塚本駅の建設に反対する他の地主に抗して田畑を提供した。祖父は孫の教育にも熱心。末っ子の美智子さんまでのきょうだい6人を大学に進学させた。学ぶ。働く。それだけでなく社会とかかわる。一家言を持つそんな祖父を尊敬した。



日帰り手術に驚嘆した。その頃、職員は勤務形態によって特別班と常勤班に分かれていた。その確執がすごかった。苦悩した中出さんは労働組合を立ち上げた。「職員が2つに分かれているのがいかん。1つになって力を合わせよう」と勤務形態を改善させた。60歳まで働ける要求も勝ち取った。

同志社女子大学で授業中に「目が悪いならコンタクトレンズにしたら」と声をかけられた。その人が綾子さん(中野信夫先生の次女)だった。それがきっかけになって学生運動に加わった。男女差別を温存する女子大はいらない、とシュプレヒコールをキャンパスに轟かせた。のめりこんだ。

祖父。学生運動。この2つの人生訓や経験が、中野眼科で働くようになって自分の人生の方向を示した、と述懐。今でもその方向はふれず、色褪せもしていない... 中出さんは満ちている。

綾子さんから「忙しいので手伝いにきて...」と誘われて中野眼科で働くようになった。中野先生の患者さんファーストの姿に心酔した。芥川徹先生の京都初の白内障

藤沢周平が没して25年。「新しい藤沢作品はもう読めない」。亡くなった日のこの喪失感は今も脳裏に鮮明です。そんな彼の多くの時代小説の舞台が本のタイトルにある東北の架空の小藩、海坂藩。その地で誠実に生きる

下級武士や若者ら。彼らを優しく包み、時に過酷なこの城下は藤沢作品の隠れた主人公でもあるでしょう。

代表的な海坂ものとされるのが「蝉しぐれ」、「三屋清左衛門残日録」でしょうか。私は特に、



湯川 豊 著

『海坂藩に吹く風—藤沢周平を読む』

城下にある「涌井」という小料理屋がよく登場する残日録に惹かれます。店の一間で土地の料理にゆっくり箸を動かしながら密談する老境の清左衛門。ストーリーの展開とともに城下の生業、季節感なども伝わってくる大事な場面です。

こんな魅力の藤沢作品を全て読み解くのが同書。同書を読み藤沢作品を読み返すのもお勧め。かつて海坂藩のモデルという藤沢の故郷、山形の庄内を旅し小説の舞台を偲んだことを思い出します。文芸春秋。

(松本忠之)

新しい役員を選任。監事は3人に

通常総代会で選任された理事10人、監事3人、また第1回理事会で互選された代表理事ら役職者は以下の通りです。敬称略。

- 理事長=宮本和明(代表理事)(再任。以下「再」)
- 専務理事=清水泰治(代表理事)(再)
- 常務理事=川久保雄二郎(新任。以下「新」)
- 常任理事=松本忠之(再) 須賀修司(再)
- 理事= 大槻 靖(再) 荻野宏子(再) 坂 博子(再) 村田四郎(再) 毛利雅彦(再)
- 監事= 安部敏弘(再) 大山治寿(新) 中川郁子(再)

